

しくは、児死亡の既往を有し、かつ妊娠中に抗体上昇を認めた。羊水分析値（450m μ に於ける）を Lily の胎児予後予測 Zone により、各々について検討したが、2例の例外を除き全て、予後判定上有効な指標となつた。更に同じく既往歴を有つが抗体が認められなかつた14例に、又 B-O 不適合が原因と考えられる例に2例、更に腎不全のため中絶を止むなくされた1例に、夫々羊水穿刺を行ない同じく Lily の予測 Zone で検討したが何れも低値を示した。たゞ1例に羊水穿刺が原因かとも考えられる胎児敗血症を認め、生後ビリルビン値の上昇を来したため交換輸血を行なつたが死亡せる例を経験したが、その他には、羊水穿刺による副作用は認められなかつた。

結論として、羊水穿刺は、抗体上昇を認めない例には何も必要がない事、又 RH 以外の血液不適合例についても同様である事、胎児奇形を併う場合は、羊水分析による予後判定は困難である事、又重度に感作されたと考えられる場合は妊娠25週頃より羊水分析を行ない、初期に高値を示す場合は、速かに胎内輸血を、又妊娠週と共に上昇を示す場合は、胎児の予測体重、及び既往妊娠歴を参考に陣痛誘発時期を決定する。もし胎児が2kg以下と考えられる時は胎内輸血も考慮する事。最後に、今後増加すると考えられる RH 初産婦に対し、すでに、米国で行なわれて居る如く、抗 D 血清等の利用によりその分娩後抗体発生阻止の方向に研究を進めるべきであると考えられる。

質問 (岡山大) 武田 佳彦

適合群での peak はどこにあつたか。peak の特長は何か。

答弁 (淀川キリスト) 河辺 敬三

羊水分析のピークは 470m μ であつたと思う。

質問 (九電) 白川 光一

羊水分析所見に異常なく、出生後臍帯血の直接・間接クームスとも陽性でありながら、臨床症状が殆んど欠除した症例が数例あつたとのことであるが、かかる臍帯血クームス試験の成績からは、常識的には児血球が100%完全に不適合抗体で飽和されてなおかつ余剰の抗体があるものと解釈すべきである。この点に関するクームス試験と臨床症状との間の矛盾をいかに解釈されるか。

答弁 (淀川キリスト) 河辺 敬三

37週における羊水分析値 0.015 (Zone I) で、生下時体重 2,840 g, Hb 14.3gr, 直接間接クームスが陽性であつた症例 に関してはおそらく羊水穿刺が直接原因で、胎児感染をおこしたためではないかと思う。他に概

当例はない。

84. 血液型不適合妊娠の管理について

(広島・国立福山)

金岡 毅, 岡田 悦子, 藤井 剛

最近血液型不適合に対する一般の関心が高まり、私達産科医もはつきりした見解を持つ必要に迫られている。この様な見地から私達は最近当院で分娩した2141例について調査を行なつた。その結果は

1. 新生児高ビリルビン血症の頻度は最高血清ビリルビン濃度が18.0—19.9mg/dlのものが4.8%, 20.0—24.9mg/dlのものが3.4%, 25.0mg/dl以上のものが0.3%であつた。

2. 母の ABO 型別の新生児高ビリルビン血症 (18mg/dl 以上) の頻度は妊婦の血型の分布とほぼ等しく特に O 型の母に多い傾向は認められなかつた。

3. 赤石によると母児の ABO 血液型の理論値は母児の血液型の適合群が73.8%, 不適合群が26.2%であるのに対し、18mg/dl 以上の高ビリルビン血症を呈するものが ABO 適合群に71.4%, 不適合群に28.6%, 20mg/dl 以上の高ビリルビン血症が適合群に64.4%, 不適合群に35.6%, 交換輸血の必要例が適合群に57.1%, 不適合群に42.9%と ABO 不適合群に重症化する傾向を認めるが、これを症例数から見た場合、高ビリルビン血症 (18mg/dl 以上) が適合群 110例に対し不適合群44例、高ビリルビン血症 (20mg/dl 以上) が適合群47例に対し不適合例26例、の様に症例数から見れば必ずしも母児の ABO 不適合を強調する必要はないものと考えられる。

4. 新生児交換輸血の頻度は 0.8% であつた。

5. 更にこの中の16%の Rh-妊婦に関する臨床経過についてのべたが Rh-不適合群についても分娩前に十分な血液型管理を行なう限り、予想される程危険性の高いものでないことを見出した。

以上の結果から母児の血液型管理を行ない新生児重症黄疸のスクリーニングを行なえば重症黄疸の危険性について妊婦に不必要な心配をさせる必要の全くないことを見出した。

質問 (北海道・遠軽厚生) 桜庭 衡

不適合妊娠の管理に際し、血型のみでなく、児の酵素学的研究はされなかつた。

適合群にむしろ高ビリルビン血症が多いことの原因について分析されたか。

答弁 (国立福山) 金岡 毅

酵素学的研究はやつていない。そのうち発表の予定で